

平成28年 8月 25日

## 博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 1127022011

氏 名 宮崎 彩乃

論文審査員

主 査 (教授) 大桑 麻由美

副 査 (教授) 北岡 和代

副 査 (教授) 稲垣 美智子



論文題名 Development of questionnaire on perception of patients with diabetic nephropathy

### 論文審査結果

【論文内容の要旨】本研究は、糖尿病合併症である糖尿病腎症患者の透析予防指導に活用可能な「糖尿病性腎症患者の状況の捉え方質問紙」を作成することを目的とした。研究方法は、尺度開発の方法に準じ、①質問紙原案作成、②信頼性と妥当性の検証の2段階で実施した。質問紙の原案は、先行研究（博士前期課程で実施）で明らかにした24項目を基に内容妥当性の確認段階で28項目となり、表面妥当性を確認して28項目の原案が作成された。質問紙の信頼性と妥当性の検証は、糖尿病性腎症2期あるいは3期と診断された2型糖尿病患者326名（6つの病院に外来通院）を対象として、自記式質問用紙による留め置き調査を実施した。

175名から有効回答を得た。信頼性と妥当性には構成概念妥当性を探索的因子分析、信頼性にはCronbach  $\alpha$  係数、弁別妥当性を用いた。

その結果、探索的因子分析では4因子20項目（第1因子8項目：“将来、糖尿病や糖尿病性腎症が悪化することに対する意識”，第2因子5項目“自分の身体に覚悟をもった冷静さ”，第3因子3項目“腎症と診断された小さな衝撃”，第4因子4項目“糖尿病性腎症は自分の力が及ばない感覚”）で構成される累積寄与率50.20%の質問紙となった。この質問紙の信頼性を示すCronbach  $\alpha$  係数は0.738、弁別妥当性は網膜症あるいは神経症の有無、インスリン注射の有無により得点間に有意差を示し、確認された。

【審査結果の要旨】糖尿病性腎症の悪化は透析患者となり、日本における透析患者の原因疾患の第1位である。その医療費は高く悪化防止は重要な課題とされてきた。しかし、患者に自覚症状がなく、その指導は困難であるとされてきた。本論文は、その課題に対して博士前期課程から継続して取り組んできた質的研究結果の仮説を基に量的に証明し、質問紙に発展させた学術的価値の高い研究であり、今後の糖尿病医療の発展に貢献すると評価する。本研究の結果作成された質問紙は今後臨床における実用性も高い。また、公開審査では、いずれの質問にも適切な応答がなされた。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。